

# 家族で話そう インターネットの

# ルール と マナー

ケータイやスマートフォンは、簡単にインターネットが利用できてとても便利です。かつて車や電話がそうだったように、快適な生活を送るうえで、今や必需品となっています。

一方、便利なものは、使い方を誤ると事故やトラブルにつながります。

インターネットにも様々なトラブルの可能性が潜んでいます。

次の4つのネット危機のサインに注意して、あらかじめ利用ルールやマナーについて、家族で話し合みましょう！



- ① ケータイ依存    1日に多数のメールを送信している。  
メールをすぐに返信しないと不安になる。  
オンラインゲームを一日に長時間している。  
**健康的な日常生活が送れなくなります。**
- ② ネットいじめ    はじめは、からかい程度から。群集心理やいじめられないための防衛心理からいじめが拡大・増長する。  
**短期間に被害が拡大、深刻化していきます。**
- ③ ネット誘引    好奇心と親近感から知らない人に会いたがる。  
相手は同世代や同性の友達になりすましていることがあるので正体が分からない。  
**性的被害や、暴力などにあう危険性があります。**
- ④ ネット詐欺    お金儲けの巧みな誘惑に興味を持つ。  
大人のクレジットカードを無断利用することもある。  
**お金、物品、情報をだまし取られる危険性があります。**



※石川県では、いしかわ子ども総合条例によって、未成年の携帯電話の利用が制限されています。

# 青少年の健全育成にご協力を！

“かほく”の若者、子ども達のすこやかな成長をみんなで見守りましょう！

子ども達にとって、待ちに待った夏休み！  
夏休みは、いろいろな体験ができる大切な時期です。  
しかし、生活習慣が乱れたり、  
危険な誘惑が多くなる時期でもあります。  
家族や地域全体で、若者や子どもたちの生活を見守り、  
充実した夏休みを過ごせるよう、ご協力をお願いいたします。



## 早寝 早起き 朝ごはんの定着を！

- ◆計画を立て、規則正しい生活をしましょう。
- ◆ラジオ体操に参加しましょう。  
(大人も参加するようにしましょう)
- ◆朝ごはんをしっかりと食べましょう。
- ◆子ども会など地域行事に積極的に参加しましょう。
- ◆スポーツ少年団や地区行事の練習など夜間活動の時間帯の短縮にご協力をお願いします。



## 盆踊り・祭礼のお願い！

- ◆練習に参加した児童・生徒は午後9時までに帰宅させるようご配慮をお願いします。
- ◆地区外の盆踊り・祭礼に小学生が参加する時は、保護者同伴とし、中学生には行き先、帰宅時間を家人に知らせてから外出するよう指導してください。
- ◆主催側では終了時刻にご配慮くださるとともに会場では危険のないようお願いします。
- ◆祭礼、盆踊りに参加した児童・生徒に飲酒、喫煙は絶対させないようにお願いします。

## 健全な生活を！

- ◆子どもだけで夜遊びや外泊、夜間外出はしない。
- ◆火遊びはしない。(花火は保護者と一緒に。)
- ◆ゲームセンターやカラオケ、ツルギには、子どもだけで行かない。(16歳未満は18時以降入場禁止です。ただし、保護者同伴に限り22時まで入場可能です。)
- ◆不審者(車)からの「声かけ」や「誘い」には絶対に応じない。



## 安全な生活を！

- ◆交通ルールを守りましょう。
- ◆13歳未満の子どもは自転車に乗る時は必ずヘルメットをかぶりましょう。また、危険な乗り方は絶対にしてはいけません。(二人乗り、飛び出し、並列、わき見、ジグザグなど)
- ◆海水浴には、必ず大人と一緒に行きましょう。

## 子ども110番の家

子どもが、助けを求めることができる「子ども110番の家」があります。これは、この制度に協力するお店や会社、民家等が犯罪に巻き込まれそうな子どもを保護し、110番通報する仕組みです。「子ども110番の家」の協力者は看板やステッカーを目立つところに設置しています。

お子さんが緊急の時に避難できるよう、一緒に確認し教えてあげてください。

とうとう来てしまったのね。  
待ってたよ、挑戦状。  
受けて立とうじゃないの♡  
なんてったって、  
ママは、反抗期の先輩なんだからね。  
凜泉よりも凄いやつ。経験者だぞ。  
今度、ママに勝てる方法  
教えてあげるよ(笑)

塚本 千絵美(母)

挑戦状！  
お母さん、どうやら私は  
「反抗期」に突入した模様です。  
お手伝いは、たのまれるといたくありません。  
なぜか、色々なことに腹が立ちます。  
お母さん、こんな私の挑戦状、  
受けとってもらえますか。

(養護) 小6 かほく市  
塚本 凜泉  
りせ

親子の架け橋一筆啓上 親子の手紙より  
(平成二十七年年度心の教育推進協議会優秀賞作品)



このルートが明です。